ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ共和国　**特定非営利活動法人アジア植林友好協会：東京都西東京市**

インドネシアバリ島火山爆発被災地の水源涵養林再生植林事業

団体ホームページ： http://www.agfn.org/
E-メール info@agfn.org 電話 04-2968-6343

＜事業紹介＞

インドネシアのバツゥール山の 1849 年の火山爆発で被災し、158 年も放置されてきたために、島民の生活用水でもある「バツゥール湖」の水位が 2m 余りも低下し危機的な状況になってました。その対策として、バリ州政府から植林の協力の要請があり、2007 年より水源涵養林の再生植林に取り組んできました。過去 9 回の火山爆発のうち、1963 年に被害のあった土地への植林が 2015 年から始まりました。現場は、火山礫の堆積した「土」のない厳しい環境でしたが、試行錯誤を繰り返し、火山礫堆積地に 8000 本のアンププという木を植えました。そのうちほぼ 80%が根付いていますが、それらの木の成長を確実にするために山土を散布しました。この施工により、自然の復元力を発揮する環境づくりの効果が期待できます。

＜団体（AGFN）からの声＞

植林活動現場は、過去 9 度の火山爆発の被災で、森林植生が失われ放置されてきた厳しい環境で、地元では、植林を諦めていた土地です

2007 年から 2014 年は、1849 年に被災し 159 年間放置されてきた土地で植林、2015 年からは一層厳しい状況の 1963 年の被災現場で植林を実行しました。溶岩礫堆積地に植穴をつくり、客土し、植林しています。黒い溶岩台地で、乾期の極度の乾燥から植林木を保護し、草木がある環境を作るために、今回、JICA 基金を活用しました。現地の人々からは、不可能と考えられてきた厳しい環境で、木を植え、育っていることに驚きと感謝の念が表されています。この活動に学び、地元の高校生なども一層、積極的に植林に参加してくれています。

世界の人びとのためのJICA基金

乾燥防止・水分保持・温度上昇を防止するために株もとに草を育てる。草が生えて樹木も本格的に育ち始めることを教えられました

火山爆発の被害から 158 年も放置されてきた、地元の人達は手を付けられなかった

植林 2 年目の溶岩台地・根づいている

植林 10 年目の状況[2017 年]